

太 工 同 窓 会 報

第 5 号

昭和50年12月25日

群馬県立太田工業
高等 学 校
同 窓 会

最近の進路状況

進路指導主事 鈴木敏一

本校が産ぶ声を上げてから早くも十三年の歳月が過ぎた。卒業生諸君も社会の一員として各界で活躍しており、同慶にたえない。

本校の進路状況は、こゝ数年の例でみると就職が七十%、進学が二十%、自営関係が十%というのが現状である。創立当時進学希望が約十%位と記憶しているの点では除々に増加傾向をたどって来たように思う。そこで就職先を地域別に調査したが、表1は昭和四十八年～五十年三月卒の三年についてであり、表2は昨年のみについて表わしてみた。

我々の感じでは、本校はもともと地元希望が多い方であったが、近年とみに地元就職の比率が高まって来た感じをもっているが、この表でもその変化がわかる。創立時の詳しい資料はわからない。

いが地元への比率は五十～五十五%くらいと記憶している。当時他校では地元が四十%位であった。これは太田市を中心に東毛地区が首都圏に指定されて以来、工業団地の整備、誘致工場の増加によるものであり、本地域が如何に工業都市として発展してきたか物語るものである。県内では勿論、太田大泉地区が中心で、論送機器、家電、機械金属、合成化学関連の製造業が中心であるが、最近では販売サービス業、公務員関係への希望も目立って来た。

さて今年の求人情況はどうだろうか、こゝ何年か続いた高度成長は、御存知の通りで、卒業生に会うたびに聞く言葉は残業の多い事、二直三直のことであり仕事の忙しさが原因の苦情であった。

また青田刈りと言う位で生徒も会社をより好んで選ぶという状況が続いたが、一昨年の石油ショックにより経済界に急ブレーキがか

かり各方面に摩擦が生じているのが現状である。

幸にして本年度の卒業生については採用取消しは一件もなかったが、それでも延期は数名ありその期間は一ヶ月～最高6ヶ月に及ぶ会社があった。本年八月までの求人申込でみると、前年同期比で、1/2～1/3位で、非常に不足が遅れている。低成長に入って企業の販売、生産、採用の計画予測が立てにくく、今後の見通しの難しい時期に来ている。今までも何回か不況におそれ、そのしわよせは必ず中小企業といわれて来たが、今回はそればかりとはいえず、大企業でも中止削減を決定している。ことは資源問題から発しており、原料高、輸出入の縮小基調、消費の減退等、我国経済の構造的体質改善を追られていると見てよいのではないか。

当然のことながら地元企業の求人も慎重で、縮小検討中の所も少なくない。一般的に製造業の打撃が大きく、第三次産業、サービス業界は従来の不足補充の意味が割合に活発である。

たゞこの地区の特徴として工業団地に移転して来る会社があるの点はこの注目すべきである。以上は本年前半の一般的情勢であり

、勿論例外や特種のケースもあるが、会社の人事関係の方の話では、最近では欠勤も少なくなり、退職もないとのこと。これからは量より質への転換が計られている。それにしても思い出すのは第一、二回生の頃で、当時の不況に加え地元の企業だけでは、卒業生の数に満たず、それではというので、皆で手分けして京浜地区へ開拓に出たが、太田工高といっても誰も知らない土地で説明に苦労して歩いたのも、今は昔である。

就 職 先 の 地 域 別 分 布

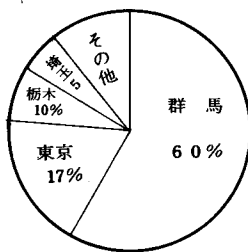


表 2
昭和 50 年 の み

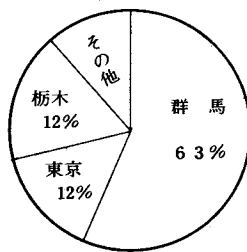


表 1
昭和 48 年 ～ 50 年

母校を去られた 懐しき恩師は今

川田 光一

新田高校長

この世の中で、どんな人間が人間を裁き、どんな人間が人間を教える資格があるのかと、しみじみ考えさせられる此頃です。又一方今の日本に最も大切で、最もおくられているものが二つある。それは政治と教育だという人もいます。ともに教師に関係する訳ですが、私など本心に賊鬼大将で月給をもらって申し訳ないと反省する事や切です。今の物質文明の社会風潮は、最少努力による最大効果を最大の目標にしているようですが確かに物の効率化からいえばそうなるでしょうし。しかし人間関係の分野に、その論法はあてはまらないと思つています。少なくとも我々教師の努力目標は、最大努力による最少効果を、というところですか。人間同志のつきあいのむずかしさは、この点にあるのです。

だからといって最大努力とは、他人のためにつくすということではなく、自己の最善をつくすこと、他人には関係のないことということとは解つてもらえるかな。

私は今、父母墳墓の地、新田町の高校で、甘・苦・渋の人生の味をかみしめています。

最近の太田工業の周辺の開発ぶりは驚ろきですが、寂しい気もします。雄大な直線美の威容が十分に眺められなくなった事は、本心に残念です。学校はやはり静かな環境の中にありたいものです。

太田工業の創立当時はそれにあたるのでしよう。その点だけからいえば、私の現任校は合格です。かつての国連事務総長ハマーシヨールド氏の言葉に

理解するー心の静けさを通して行動するー心の静けさから

出発して

かちとるー心の静けさのうちに

というのがあります。外的条件の変化はやむを得ぬとしても、私たちがこの「心の静けさ」だけは、何とか持つように努力していきたいと思つています。その方法は、めい

々異なるでしょうが……。

現在私の家族構成は四人、女房に男の子二人、健康だけが取柄といえることを、本心に有難いなあと思つています。そして次男が今年、太工の電気科に入学しました。皆さんの同窓会の一員に、三年後は多分加わることだろうと思つています。

どうぞその節はよろしく指導してやって下さい。御元気で、皆さんの健福を祈つております。

横山 浩

板倉高校長

私が太工高を去つたのは昭和四十六年三月でした。創立された昭和三十七年から勤務でしたから、満九年在職したことになり本心に思い出の多い九年間でした。

第一期生が入学した時は、市街地を遠く離れたもと金山高校の老朽校舎での授業でした。

交通不便で雨もりのするガタガタ校舎とろくな運動もできない狭い校庭、全く単調な四ヶ月でしたが、素直で明るい屈託のない三〇〇人の生徒と、隣接の幼稚園からもれるピアノの音が何よりの救い

でした。

この年八月末、新校舎に移った後も校庭、中庭の整地と植樹等で、嶋岡校長さんのよく云われた「将来大発展する本校にふさわしい構想で」の言葉で随分と研究させられたことも本心になつかしい思い出です。

年数を経過したからだと思いますが、進路指導を担当してみても、工業高校というものが理解できるようにになりました。後日ある所で耳にした「工業高校の進路指導は専門科の教師でないとよくできない」の言葉にいよいよ斗志湧かせたことを思い出します。

京浜方面就職者に対して東京で行う激励会、三年生担任の地元企業見学会、日本職業指導協会の研究指定校となつてやった「本校率業生の追跡調査の研究」や「進路ノート」、「進路の手引き」作成等進路指導係の熱意と若さのよき先生方と、推住各位の多大の協力と御支援が得られた結果でありましたが、私にとって本心に充実した時代がありました。

竹内校長さんの頃教務主任を一年つとめました。この年、本校創立十周年の記念行事があり、他の先生方の御協力を得て、「創立十年のあゆみ」をまとめることがで

きました。これが、これこそ私が九年間本校でお世話になった、最後の仕事でした。

今にして思えば、本当に充実した気持ちで勤務した九年間でした。これもひとえにお二人の校長さんと各先生方、当時在校された卒業生の皆さんの人格と人格の温いふれないのあったたまものと思えます。

太工と同窓会の発展を衷心より御祈念いたします。

柿沼 武男
太田女子高教頭

同窓会会員皆様お元気で仕事にご精励のことと推察申し上げます。最近の経済は将に激動の所でありますので会社工場の現場はほんとうに大変なことと拝察致します。こうした時代こそ、勇気をもって仕事に当って下さい。そうしてこそ太工高在学三年の証拠と心得ます。易きは何人も欲するところですが苦難に立向ってこそ男というものです。私もお陰様で極めて元気です。太工高を転出してから大泉高校に四年、現在は太女高で一年半過ぎます。いずれの学校でも楽しみもあります。むしろ苦し

いことの方が多いいやうです。職場が異なると学校の慣行、方式が違って参りますので先づそれに対処しなければなりませんし、一方に於いては一步でも現状から抜け出して実績を残さなければ意義がありません。従って職場が変わるごとに一步から出直しの状態です。馴れた職場では味わい得ない喜びも従って有り得ますので、そんな処が生きて甲斐とでも申しましょか。三校を経験して思うことは、太工には太工の良さがある、大泉高には大泉高の良さがあり、太女には太女の良さがあります。太工時代のように生徒と教師の信頼関係は私にとってもう生れようもありません。もっとも現在は援業もあまり出ませんし、クラブ活動も出ませんので当然かも知れませんが、その辺が一番残念です。

さて太女に参りまして最も痛感しますことは、普通科には普通高校としての厳しさがあるということです。普通校の最大事は進学問題です。男女平等の原則は大学受験も同様で女子だからといってこればかりは男子に甘える分けには参りません。むしろ男子以上の努力と忍耐が必要です。こんな所が戦前の教育と違ふところ。高校の良し悪しは大学合格者数

によって判定が下されるいう現実的な問題が最大の関心事ということです。四十九年度はどうやら期待以上の成果をあげ得ましたが、もう五十年度が待っています。生徒も全く大変です。我々教師も一緒に頑張っています。

岩谷 正一
安中蚕糸高工化科長

太工高を去って七年の歳月は流れた。幹線を離れローカル線を何も考えずに唯ひた走りに走っている。肩に帽子に積った塵を払いのけるだけの毎日。

今の私に太工高の様な学校を作れと命令されても二の足を踏むと思う。當時を回顧して、私の人生の中で最高の時期に、最高の仕事にめぐり逢えたこと、又最高の教育が出来たことを感謝している。「若さ」が私に力を与えたのだとも思っている。

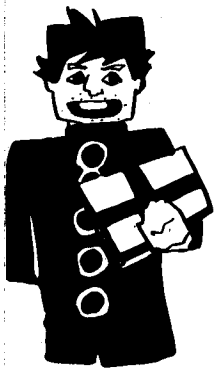
第一期、第二期の卒業生には大変つらい学生生活だったと思えますが、その辛い中で、「何か」を身体で休得してくればと自己満足しています。

今の私には楽しい事のみが思い出されています。

太工高勤務当時、小学五年生であった長男も結婚し、小学二年生であった長女も成人式を迎え、にぎやかであった食卓も夫婦二人だけの味気ないものになってしまつたが、「若さ」のいたりで蒔いた種子があちこちで芽を出したくまなく成長してゆく姿をみたとき、教育者として太工高創設の意志は遂げられたものと思つています。国でも家庭でも母校でも、卒業生諸君等の「若さ」が必ず必要となります。充分力を貯えて置いて下さい。

未完成の美。完成された美。どれも甲乙はつけ難いと思うが、在勤当時の未完成の太工高と脈動あふれる若さの諸君を、忘れることは出来ません。

私も、もう一度あんな無茶をしてみたい。最後に母校の発展と卒業生諸君等の健康とご多幸を祈ります。



高山 慶造 (富士重工)

十一 M 常任幹事

卒業式から一ヶ月後、私は富士重工へ入社しました。

入社式での所長の言葉は現在の経済状況の悪化を取り上げた厳しいものでした。それから一ヶ月間新入社員教育があり、学生気分の抜けきらない状態での教育であったため、まだ学校へ行っている様なものでした、それで給料がもらえるのだから相当楽な気分でした。教育も終了し、各職場への配属を言い渡されましたが、私は試作に決りました、正式名はスバル技術本部車体試作部試作工作課です。

見ると聞くとは大違いで、感じからしてパツと華やかさそうでしたが、現実には甘くはなく地味で腕が物を言う職場でした。ここで一ヶ月間課内教育があり、今度の教育は仕事に直接関係のあるものでもう学生気分などありませんでした。それに早く仕事になれる様に相談相手、アドバイザーとしての指導員が決りましたが、偶然その指導員の人は、一期先輩の機械科卒の斎藤さんでした。先輩後輩なのですぐに良き話し相手になってくれて、早く職場になれました。仕事の内容は、単一部品の加工で

型に板を合せて木製のハンマーや三角形の矢等、その他色々な工具で作っています。九月より三ヶ月間、二工作に実習応援で組立の経験をしました。どの職場でも大変だなあと思います。

田部井 稔 (太田市役所)

十一 C 常任幹事

私は今年太田市役所に入職し、太田市古戸の衛生処理センター水質検査室に勤務をしている。学生時代学んできた事を多に活用できるのがうれしい、設備、器具などはまだまだ十分ではないが、原子吸光分析装置や分光光度計等もあり、これからは機器分析についても勉強していこうと思っている。

部屋の環境は大変良くクーラーが三台設置されていて、真夏にガスバーナーを使っても暑さを感じない程である。部屋には三つの机があり真中に主任の A さん、左に B さん、右に私と配置されている。A さんは流石、大学院まで出ただけあって、色々優れている。今その A さんにしこまれている所です。A さん B さん共に良い人なので毎日の仕事を楽しくやって

いる、一番大事な人間関係も今の所心配なくうまくいっている。

仕事に於ては下水曝気槽の運転管理が主である。下水曝気槽とは下水中の有機物質をバクテリアによって分解処理させる槽で、管理は以外に難しい。曝気槽の運転と平行して放流水の検査を午前午後一日二回行ない、月に一度は、他の機関と放流水についての平行試験を行い技術の向上を図っている。今日では、BOD も放流基準よりもはるかに良好の処理水を放流している。私の現在の目標は、水質一種の資格をとることである。

太田工業高校での思い出

伊勢崎商業高校

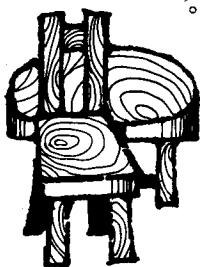
竹沢 征雄

私にとって太田工業高校は、母校のような気持から抜けだすことができない。新卒で赴任した当時、太女高 (旧校舍内に仮校舎が開設されていた) の古めかしい教室の片隅に職員の本が数個、並べられ四、五人の教師がなにか難しい話しをしているように見えた。事務上の手続きをしなから、聞いて

いると、何と困窮の話をしているではないか、一瞬、躊躇すると共に非常に安心しました。やがて私立金山高等学校校舎を借用し仮校舎として移転された。最初は新設校のためか、週二、三日は宿直があり、しかも老朽化した校舎には何の設備もなく机の上に薄い蒲団をひき寝るのですが、時々どうしたのか、机の上から落ちたものです。

夕食も近くに店がなかったため、ラーメンかパンで我慢したものです。翌日は、実のところ空腹で閉口した。雨が降れば、教室にバケツを用意しなければ水浸になるし、また授業中に山鳩が屋根のすきまから飛び込み、捕えたときには全員爆笑し、授業を続行しても鳩の声で再び笑い、まるで山おくの分校にいるような錯覚をおぼえたものです。

とにかく、恵まれない状況の中で互いに人間的な理解が自然に生まれ、情熱を傾注することができたことは、理想的な学園であったと思う。



アメリカ生活の一端

二 E 武井 賢吉

昭和四十八年の夏私が大学三年の時である。アメリカ単独四十日バス旅行に行きました。

アメリカに着いて十日程たった金曜日の午後、冬季オリンピックが市民投票で中止されたデンバーより東に走り、ミシシッピー河の上流セントルイスのバスステーションに着いた時のことである。

バス内で知合ったある一家と写真を撮り合っていると、その光景を見ていた若夫婦がいた。私が近づくると早口の英語で話しかけてきた。あまりに早口だったので私は聞きとれなかった。聞き返す事もせず笑顔で近くに Y M C A ホテルがあるかどうか聞いてみた。この附近にはなく車で行けば十分程の所にあるので「私達の用事が済めば送りますよ」と言ってくれた。

その言葉に甘えて送って貰うことにした。黒塗りのオープンカーで送られる車内で自己紹介をした。旅行の事、日本の事などを話しているうちに車は Y M C A ホテルの前に着いた。普通の人であればホテル前にて別れる所であるが彼、(名前はトニー)そして奥さん

のジャッキー)は車を有料駐車場に止め私の荷物を持ってホテルのフロントまで一諸に行き、私が予約をするまで見守っていてくれた。予約ができ小切手を切ろうとすると、横でひそひそ話をしていたトニーとジャッキーが、「ケンちゃん」と待ちなさい、「今日は金曜日、子供は両親のもとに預けてあるので子供用ベットが空いているから我家に来ないかと言ってくれた。一度は辞退したが再三の誘いで一日だけお世話になることにして、ホテルを後にした。

今大学で電気工学を専攻していると話したら、それでは私の会社のトレーニングスクールを案内しましょうと連れて行ってくれた。重役や教育主任などを紹介された後説明を聞き、スクール内を案内して頂いた。電気工学の基礎から応用、溶接など各コースに分かれていて、卒業する頃には現場で充分通用する技術をマスターするそうである。

翌日の土曜日、トニーとジャッキーは友人と水上スキーで週末を過ごす予定であったが、私がお世話になったために急遽計画変更し、約百キロ程離れた遊園地に行くことにした。トニーが友達に電話で計画変更の訳を説明し、その計

画に参加して貰うことにした。

午前中はマントルイス市内や、ショウボートで有名なミシシッピー河で過ごした。午後トニーの友人宅に集合し、八人程の友人に私を紹介するトニーの顔には、数年来の友を紹介しているような気が感じられた。車四台で遊園地に行っただのであるが、遊園地といっても子供も大人も一日充分楽しめる程広く、色々の楽しみ方が出来るように、野外ホール、劇場などもあった。驚いたことに小学生の子供達も両親と一緒に夜の十二時近くまで遊んでいた事である。

私達が遊園地を出たのはクロウズの十二時であった。それから食事をして家に帰ったのは三時であった。

翌日、午後二時セントルイス発ニューオリンズ行きのバスに乗る予定であった。しかし日曜日の為か予定のバス一台では乗客全員乗ることができず、臨時バスが出ることになった。私はそのバスに乗る為に、トニーとジャッキーに別れを告げ乗込んだが十分たつても二十分たつても出発せず、とうとう三十分遅れて出発した。

あちこちで手を振る人達を背にバスは加速度を上げて、バスステーションより道路に出るべく大き

く左に旋回した。

外にはポツ／＼と雨が降りだしていた。右下を見降すと幌をかぶせたオープンカーの中より手を振っているトニーとジャッキーの姿が見えた。バスの改札口で別れてから三十分も過ぎたのにもかかわらず、雨の中待っていてくれたのである。私も彼等にわかるように手を振った。彼等の温情が手を振る私の全身に感じられた。

雨は増々激しく降りだした。

町を抜け高速道路に入った時にはすでに雨は本降りになっていた。外景を見つめながら、この二日間の楽しかった思い出にひたっていたら何か気を引かれる感じがして窓下を見ると、トニーの車が走っていてその中で手を振っているトニーの姿が見えた。私も出来るだけ大きく手を振り返した。

トニーの車は雨の高速道路の中に見えなくなり、いつの間にか、まぶたに熱いものを感じていた。

会員だより

訃報(四九・十・五〇・八)

糸井秀一 (二期定)

金子進市郎 (八期 M)

同窓会では、既に二十四名の方々が永眠されました。謹んでおくりやみ申しあげます。

新実習棟の完成

昭和四十年年度に将来の実習棟擴充計画を見込んで敷地約二、四〇〇㎡の校地を確保、新実習棟の建築に備えてきたが、昭和四十八年度産業教育振興法に基づく、国庫補助を含む県費負担で、工事計画が進められ、建物及び内部備品を含めて相当額の予算で着工寸前に、周知のとおり石油ショックに始まり未曾有の狂乱物価の襲来で、備品については早くから準備をした関係で契約が予算内で成立したが、建物については、契約成立が非常に困難を極め、入札をしても落札不可能になり、仕方なく県当局に於て、追加予算を計上し、昭和四十九年度へ事業の繰越を行い、その入札契約着工と順調に工事が進み、昭和四十九年九月三十日に新実習棟が、工費一億四千万円、内部備品五千万円計約二億円の巨費をもって完成した。

教室よりも採光、色彩等もすぐれて、非常により建物である。このようによい環境で勉強できる生徒は幸せである。これで本校も施設、設備とともに県下最優秀の学校施設をもった工業高校となったわけである。なほ学校新実習棟の概要は次のとおりである。

機械科	板金溶接実習室	一二八㎡
	精密工作	六七㎡
	仕上組立	二二八㎡
科務室(職員室)		六二㎡
電気科	製図室	二二八㎡
	電気計測実習室	一四七㎡
	電子工学	一九〇㎡
科務室(職員室)		六二㎡
工業化学科	化学工学実習室	一五〇㎡
	製造プラント室	一五〇㎡
	製図室	二二八㎡
	薬品器材庫	四三㎡
	科務室(職員室)	六二㎡
その他	便所	二四㎡
	階段	七六㎡
	渡り廊下	二二㎡
計		一五六七㎡

事務局だより

七年間同窓会会計として本会の発展にご尽力いただいた竹沢先生が伊商高へ転任されました。永い間ありがとうございました。今後の御活躍を祈念いたします。後任に中里先生(機械)中村事務長(事務)が就任いたしました。後輩のクラブ活動は、野球が県大会準決勝で富岡高に惜敗、軟式庭球はベスト8で関東大会へ、バスケット、サッカーはベスト16と健闘しております。夏休みも過ぎて就職シーズンをむかえましたが今年には就職戦線異常ありで、九月に入ってから求人を取消す会社もあります。就職しても仕事の上でより一層きびしいものがあると思えますが後輩の指導をよろしくお題いたします。三年に一度の工業祭が五十一年十一月二・三日に開催される予定です。母校も施設設備が拡充されましたのでぜひご参観下さい。第二回目の卒業生名簿発行の準備を進めております。よりよいものを作るよう努力しておりますが皆様のご協力をお願いします。発行は昭和五十一年十月頃の予定です。

学校だより

職員移動 昭和五十年四月
竹沢征雄先生(社会)伊商高へ
橋口 旬(数学)大阪府津高
佐藤 正(定機)前工高定へ
藤田弁蔵(事務)双養事務長
大沢由起江(教務)退職(十月)
広田さく江(事務)
高丸善雄()
大塚 修()新任(二月)
増田守男(数学)尾女高より
大井広行(社会)新任
石井隆夫(定機)渋工高より
木村常昭()新任
小林陽子(事務)嬌恋高より
高橋君代()新任
中里昌明(機械)赤間和彦(工化)の両先生が教諭に昇任されました。お祝い申しあげます。

編集後記

第五号の発行が大変おくれたことをおわび致します。今回は、本校創設時より献身的にご活躍され転任されました四人の先生方に特別寄稿を預きましたが皆様に當時を思い起して預ければ幸いです。体験談を今後も続けたいと思いますので、皆様の御寄稿を事務局までお寄せ下さい。

(関記)